

農技セ第6514号
平成28年8月16日

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予報第7号を発表したので送付します。

平成28年度農作物病害虫発生予報第7号

平成28年8月16日
徳島県

I. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査(スダチ)では, 発生圃場率が62.5%, 果実の発病度が4.4で, 平年(11.3%, 0.2)に比べて高い。
- (2) 8月11日発表の1か月予報では, 期間の前半は, 気温がかなり高くなり, 少雨の状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か多いと予測されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。また, せん定枝は園外に持ち出して処分し, 病原菌密度の低下に努める。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では, 発生圃場率が43.8%, 寄生葉率が8.1%で, 平年(57.2%, 10.4%)並の発生である。
- (2) 8月11日発表の1か月予報では, 期間の前半は, 気温がかなり高くなり, 少雨の状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か多いと予測されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には, 充分な量の薬液を散布する。
- (2) ミカンハダニは薬剤抵抗性が発達しやすいので, 同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年より少ない)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率は42.9%で、平年(55.2%)並であるが、葉の発病度は0.2で、平年(1.7)に比べて低い。
- (2) 8月11日発表の1か月予報では、期間の前半は、気温がかなり高くなり、少雨の状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行う。

ハダニ類

- 1) 予報内容
発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
- (1) 8月前半の巡回調査では、発生圃場率は42.9%で、平年(54.8%)並の発生であるが、寄生葉率は1.6%で、平年(10.9%)に比べて低い。
- (2) 8月11日発表の1か月予報では、期間の前半は、気温がかなり高くなり、少雨の状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生には中間的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 発生の多い園では収穫後に防除を行なう。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ナシヒメシンクイ

- 1) 予報内容
発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
- (1) 7月下旬から8月上旬における交信攪乱用フェロモン剤の未設置園(鳴門市大麻町桧, 川崎, 三俣)でのフェロモントラップ誘殺数は、平年よりやや少なめに推移している。

月半旬	鳴門市大麻町桧			鳴門市大麻町川崎			鳴門市大麻町三俣		
	2016年	2015年	平年	2016年	2015年	平年	2016年	2015年	平年
7.4	42	21	55	4	欠測	7	14	0	3
7.5	39	9	64	1	11	12	4	0	6
7.6	37	53	107	1	8	23	7	7	4
8.1	65	25	142	4	3	20	20	3	14
8.2	67	12	132	7	1	18	21	6	21
8.3	53	23	117	5	0	18	5	3	14

- (2) 8月11日発表の1か月予報では、期間の前半は、気温がかなり高くなり、少雨の状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
- (1) 多発園では、薬剤防除を行う。
- (2) 被害果は発生源となるので、早急に処分する。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

- 1) 予報内容
発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
- (1) 7月下旬~8月上旬における勝浦町および上板町の予察灯へのツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシの誘殺数は、平年に比べて少なめで推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
7.4	4	83	58	15	53	1	19	14	3	8	1	19	14	3	8
7.5	4	73	64	3	47	0	13	11	1	6	0	13	11	1	6
7.6	47	43	98	29	75	0	11	11	6	6	0	11	11	6	6
8.1	32	17	468	99	124	3	6	3	4	5	3	6	3	4	5
8.2	50	20	228	195	151	1	7	2	12	6	1	7	2	12	6
8.3		8	205	23	261		5	11	2	7		5	11	2	7

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
7.4	2	251	18	6	33	6	51	59	10	76	6	51	59	10	76
7.5	2	231	22	3	41	7	33	52	7	82	7	33	52	7	82
7.6	9	396	87	15	56	3	43	47	8	40	3	43	47	8	40
8.1	26	259	194	12	85	4	25	13	8	25	4	25	13	8	25
8.2	27	87	389	66	104	3	30	22	27	16	3	30	22	27	16
8.3		59	289	6	118		15	79	13	25		15	79	13	25

(2) 8月11日発表の1か月予報では、期間の前半は、気温がかなり高くなり、少雨の状態が続くと見込まれている。気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

II. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。

